

3 えっ、漏出事故？

～近隣施設で小さな事故が発生したり、
汚染が見つかった時には～

こんなこと、ありませんか？



地域の工場や自治体の施設などで、

- 排出ガスに有害物質が含まれていることがわかった
- 地下水や土壌の汚染が見つかった
- 漏出事故が起きた

といった通常とは違う、事故の発生や汚染の事実に向
面すると、日頃は化学物質のことなどあまり気にしてい
ない人でも、急にいろいろなことが心配になってきま
す。

STEP

1

情報収集する

新聞、TVニュースなどで情報を集めましょう。
また、近隣の住民同士で情報交換したり、必要な
場合は自治体に問い合わせてみましょう。情報
源によって見解が異なるので、複数の情報源にあ
たるのが望まれます。



米国における市民と 企業のコミュニケーション

米国の化学企業のなかには、レスポンシブル・ケア(p.15
参照)プログラムの一環として、コミュニティ諮問協議会
(Community Advisory Panel; 以下CAP)という組織を
作り、地域とのコミュニケーションを進めているところも
あります。

CAPは、地域から選ばれたメンバーで構成され、地域の施
設について多様なトピックスを取り上げ、企業代表者と対
話を行います。また、地域住民の関心を企業に知らせる役
割も果たしています。

一般的にCAPには、施設のすぐ近くに住む住民や行政と
いった主要な利害関係者をはじめとして、環境NGO、医療
関係者、警察・消防、教育関係者など、地域のさまざまなリー
ダー達がバランスよく参加しています。通常は10～12人の
グループで、任期はだいたい2～3年です。

CAPは、CAPメンバーのほか、地域にある施設の長(工

STEP 2 疑問を整理する

STEP 4 活動に参加する

STEP 3 行動し質問する

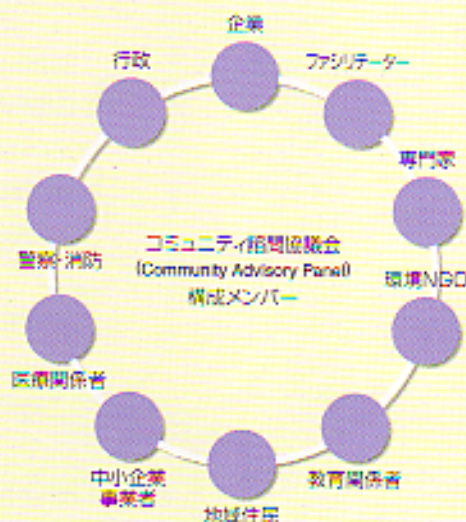
企業や行政と一緒に対策や防止策の検討に加わる。
対策の段階毎に報告を求め、達成状況をチェックする
など、継続的な監視活動に参加する。

企業や自治体から汚染除去や防止対策について
直接説明を受けたい時は、

- 定期的な説明会・懇談会などの案内は、地域の回覧板や掲示板、
広報紙などに掲載されます。
- 開催の予定がない場合は、企業や自治体に「開催してほしい」
と要望しましょう。
- 疑問があれば、その場でも後日でも構わないので質問する。
- 専門家やNGOによるサポート、アドバイスを受ける。



海外の事例



場長など)、担当マネージャーや環境保全
マネージャーらが出席し、月1回、夕方か
ら夕食をとりつつ開催する例が多いよう
です。話し合いの場では、技術的内容に
ついては企業の専門家が説明しますが、
メンバーの要請があれば、技術コンサル
タントや専門家がアドバイスを行うた
めに参加することもあります。通常、会議の
進行は、専門のファシリテーター(p.15参
照)によって行われます。

CAPの議題例

- 環境対策について担当者の話を聞く
- 化学物質の排出データと削減計画について議論する
- 有害物質の輸送ルート、輸送方法について話し合う…など

火災や爆発など 大きな事故が 発生した緊急時には…

- 化学物質が大量に流出するよう
な事故や大規模火災、爆発といっ
た緊急時には、自治体や消防、警
察、企業の指示に従って、避難な
ど適切な対応を取るべきなのは
言うまでもありません。
- いざという時に慌てることのな
いよう、日常的なコミュニケーション
を通じて、企業や行政の担当
者と「事故を防ぐために何をすべ
るか」「万一事故が起きたとき
はどうするか」といったことにつ
いて十分話し合い、可能な場合は
防災訓練などに参加しておくこ
とも重要です。